



いつの頃からか結構温泉に行くようになりました。旅行で宿泊するならできるだけ温泉へ、日帰りスキーでも帰り道の渋滞回避にスキー場近くの温泉に立寄るなどで入湯箇所数が増えました。妻と二人または単独で「日本秘湯を守る会」の宿にも宿泊し、スタンプが3年以内に10個貯まるとその中の1湯に無料で1泊できるという特典も何回か使いました。40代中頃から再開したバイクでも、妻とタンデムで近場の温泉へ日帰りとか、数日間のソロツーリング（巨樹探訪も兼ねて）での温泉梯子でも箇所数を増やしてきました。以前に入った温泉をエクセルに書き出して、2005年から温泉に入る都度記入を続けています。コロナの頃からペースが極端に落ちましたが、2024年末現在で国内742湯に入っています。この20年間で合計入湯数685（平均年34.3湯）、内新規入湯が538湯（同26.9湯）、1年で最多は72湯入湯・内新規が54湯という年もありました。2011年に沖縄県でも入湯したことで、既に全都道府県で温泉に入っています。沖縄県・愛媛県・滋賀県が1湯ずつ、トップ3は静岡県67湯、北海道と長野県が52湯ずつです。

温泉と言っても、旅館やホテル等宿泊施設の中にあるもの、温泉地の中にある共同湯、山の中にある野湯、街中の銭湯（東京にも結構あります）、健康ランドや日帰り温泉施設、等々、色々な形式のものがあります。1,000m超のボーリングで温泉を出しているところも多くなり、昔からの温泉地以外どこにでも温泉があってもおかしくない時代になっています。大阪周辺では天然温泉ではない一般の銭湯でも「〇〇温泉」と称しているものも多く、立寄り計画時に惑わされることもあります。泉質も色々、つるつる・ぬるぬる・ひりひり・どろどろ、透明・乳白色・緑黄色・褐色・黒色・灰色、食塩泉・鉄泉・硫黄泉・炭酸泉・モール泉、アルカリ泉・酸性泉、高温・低温・冷泉、・・・、中には薄っすらと油が浮いたような温泉もありました。川縁、川の中、海岸、海中、洞窟、滝、溪谷、高台、駅、空港、・・・周辺環境も色々ですし、新緑、ホテル、紅葉、雪と、季節によって同じ温泉でも違った風情が楽しめます。

冒頭写真の中央は八ヶ岳の硫黄岳（2,760m）です。このような絶景を見ながら入る野湯もあります。バイクや4駆の車でも駐車場から1時間弱歩いて到着する本沢温泉。さらにそこから夏沢峠や硫黄岳に登る登山道途中から沢に降りたところにある野湯、雲上の湯（温泉に入った最高所で2,150m）です。あまり大きな浴槽ではありませんが、絶景と大きな天空の下で老若男女が乳白色の温泉を堪能していました。



温泉宿でも八ヶ岳本沢温泉や奥鬼怒温泉郷のように、徒歩でなければ行けないところもありますが、さらに私が好きなのは車やバイクを降りてしばらく歩いて行くような山の中の野湯です。先客がいる場合もありますが一人で行けば貸切ということもあって、のびのびと大自然に浸られます。集中豪雨後の復旧など地元の方々のご尽力で維持されているところもあります。北海道平田内温泉熊の湯（ここは近くに駐車可）、落差 20m 程の滝が全て温泉の秋田県川原毛大湯滝（滝壺が湯舟、直撃はきつい打たせ湯）、岩手県網張温泉仙人湯、新潟県燕温泉河原の湯、広い幅の川底から温泉が湧く群馬県尻焼温泉（近くに駐車可。似ている岡山県湯原温泉砂湯より爽快）、東京都式根島地蛇温泉（海水との混じり具合で適温を捜す）、岐阜県塩沢温泉露天風呂、大分県別府郊外鍋山の湯（別府湾を見下ろす展望風呂、2010 年に殺人事件があり半年程閉鎖）などが印象に残っています。脱衣所がないところも多く、雨天時には入浴中衣類や靴を入れるビニール袋も必要です。



野湯のみでなく有料の立寄り湯や温泉宿でも混浴のところもあります。東北の湯治宿で「混浴は夫婦どちらかが要介護になっても入浴できる為の配慮」と聞いたこともあります。入ってしまえば水面下は見えない温泉もあり、知らない同士の老若男女が気楽に会話を交わしていることも多く、写真撮影を頼まれたことも何度かありました。山形県広河原温泉の露天風呂（間欠泉がある）で一緒になった女性と、数時間後に 70km 程離れた同県滑川温泉の露天風呂で再遭遇したこともあり、温泉の梯子をする方も増えているようです。長野県中房温泉（庭先や裏山に多数の源泉あり）の露天風呂に先客が日本酒を持込んでいて、妻と二人でご馳走になったこともありました。混浴でも水着や湯浴み着等について、義務や着用可のところ、着用不可のところ、さらに何も規定がないところがあります。規定がないところでも先客が水着ばかりだと裸では入り難いこともあります。数名の水着同年代異性の先客がいて、入れないでいる男子中学生を見たこともあります。規定がないところでは「裸」が温泉入湯のマナーではないかと思います。ウィーンのホテルプールで水泳後、暖を取る為に水着のまま妻とプール隣接のサウナに入り、タオルすら持っていない 20 代女性と一緒にあったこともありました。ヨーロッパでもドイツ語圏地域の温泉や街中のサウナは、水着不可混浴のところが多いようです。





既になくなった温泉も。左の十谷上湯温泉と前述の広河原温泉はネットに「閉館」とあります。養老牛温泉からまつの湯は、2021年の火傷死亡事故で閉鎖されたようです。昔泊まった秋田県赤川温泉（後生掛温泉近く）も 1997 年の土石流で廃業、ダム湖に沈んでしまった温泉もあります。いつか行こうと思っていた御嶽山

南麓の濁川温泉は、1984 年長野県西部地震（M6.8）時の山体崩壊で厚さ 50mの土石流の下に埋まってしまいました。

海外でも、スペインのシエラ・アラミージャ、トルコのパムッカレ、ペルーのマチュピチュと、アイスランド（宿泊したホテルと、広大なブルーラグーン）で、温泉に入りました。遺跡ではなくマチュピチュ村（1948 年・初代村長は日本人）の正式名称がアグアス・カリエンテス（「熱い水」の意）なので、温泉があると思って探しだして入りました。アイスランドのホテルの露天風呂では、温まりながら頭上のオーロラを鑑賞しました。

特別な道具も要らない、また泉質が何であれ体温を上げることは免疫力を活性化でき健康維持面でもマイナスではない（時折レジオネラ菌等の事故もあるが）。新規入湯を増やすには行ったことがないところに行くので他の見聞も広がり、時には地元の方々と裸の付き合いもできます。これからも体力と気力が続く限り「温泉巡り」を続けたいと思っています。コロナで落ちたペースをまた少しずつ復活して、1,010（銭湯）入湯を生涯目標に！（写真撮影 2005.02.12～2011.07.18）

< Google マップ参照 >

URL は、下の「PDF はこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

本沢温泉	https://www.google.co.jp/maps/@36.0128662,138.3724094,16z
川原毛大湯滝	https://www.google.co.jp/maps/@38.9960233,140.5927826,21z
尻焼温泉川の湯	https://www.google.co.jp/maps/@36.6483207,138.6410343,19z
地鉈温泉	https://www.google.co.jp/maps/@34.3179856,139.215977,17z
広河原温泉	https://www.google.co.jp/maps/@37.8286446,139.9057096,17z
中房温泉	https://www.google.co.jp/maps/@36.3954386,137.7444115,15z
恐山霊場	https://www.google.co.jp/maps/@41.3277532,141.0897315,19z
地獄谷温泉後楽館	https://www.google.co.jp/maps/@36.7326966,138.4611232,19z
蛇ん湯・鍋山の湯	https://www.google.co.jp/maps/@33.313279,131.4381656,15.75z
和気湯	https://www.google.co.jp/maps/@31.8197567,130.7601512,16z
山川砂蒸し温泉	https://www.google.co.jp/maps/@31.1831611,130.6150649,19z
北温泉	https://www.google.co.jp/maps/@37.1250537,139.996483,15z
栃尾又温泉自在館	https://www.google.co.jp/maps/@37.1852883,139.0861138,19z
馬曲温泉	https://www.google.co.jp/maps/@36.8653569,138.4462453,18z
養老牛温泉からまつの湯	https://www.google.co.jp/maps/@43.5881741,144.7139492,18z

(2025.06.01)